

山口被爆二世の会

会長 寺中 正樹様

メッセージ

被爆75周年原爆ドーム前の非核平和行動ご苦労様です。

山口被爆二世の会におかれましては、被爆二世に対する援護を求め山口県や山口市に対する行政交渉のみならず、平和を求める運動や反原発運動など幅広い取り組みをされています。

心より敬意を表します。

さて、2017年、国連において多くの被爆者や核のない世界を願う人々の努力によって、「核兵器禁止条約」が国連で採択されたことは国際的にも大きな前進と言えます。しかし、日本政府はこの採択に加わろうとはしませんでした。日本政府はアメリカの核の傘の下で、核抑止論を盾に外交を行おうとしているからです。

そもそも核抑止論というのは、お互いのど元にナイフを近づけて話し合いをしようというものです。このような考え方では、国家間の本当の信頼であるとか和平であるとか成立するはずはありませんし、核兵器廃絶も困難です。

アメリカのトランプ政権の言いなりとなる日本政府は、独自の核廃絶の考えもなく核抑止論に頼るのみです。全く許すことはできません。

核廃絶に向けて、唯一の戦争被爆国としての責任と義務を果たすべきです。

世界の先頭に立って、核兵器廃絶に向けた行動を取るべきです。

原爆投下後、75年が経過しました。生き残った被爆者やその子どもの被爆二世も未だに自らの健康不安や差別と闘っています。75年が経過してもその傷後は消えません。このことこそが、核兵器が非人道兵器といわれる所以です。

私たちを取り巻く情勢は大変厳しいものがありますが、今後とも山口被爆二世の会と共に、私たち全国被爆二世団体連絡協議会も「二度とヒバクシャをつくらない」ために闘うことをお誓いして連帯のメッセージとします。

2020年8月6日

全国被爆二世団体連絡協議会

事務局長 平野克博